

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学工学部1年 富永 達也

香港中文大学サマースクールに参加して、非常に有意義な20日間を送ることができた。

初めにプログラム内容についてまとめる。授業があったのはテストが行われた最終日も含めて計14日間で、午前は主に文法についての、午後は主に実用的なコミュニケーションについての授業であった。私は中級の授業を受けることになった。中級の授業は中国語学習歴の浅い自分にとってかなり挑戦的でやりがいのあるものであった。授業担当の先生方は熱意をもって教えてくださった。スライドが手の込んだものであったり、生徒である我々に積極的に発言を促したりと、極めて質の高い授業だった。授業外の雑談にも優しく応じてくださった。平日は授業に加えて放課後、複数回“文化体験活動”が実施され、料理体験やお茶体験などに先着順で参加することができた。休日は私たちが宿泊していた寮の生徒が主催したツアーが2回開催された。一回目は香港到着翌日で、本格的な中華料理を頂いて、山頂から香港の街並みが一望できるスポットにも足を運んだ。2回目はヴィーガンランチを頂いた後、大仏と漁師村を見て周った。中文大学歴史学科の学生との交流会では、私が所属していた班は寿司文化について現地の学生達に説明した。私は発表の原稿を暗記して、聴衆に質問に応じて挙手を求めさせるなど、発表をより良いものにしようと工夫を施した。発表後に中文大生から「中国語の発音が聞き取りやすかった」との感想を頂き、頑張った甲斐があったと思えた。これらに加えて急遽開催された香港城市大学の日引教授と香港領事館の桑原さんとの会食においては、大学の研究室の話など非常に価値のあるお話をしていただいた。

今回の香港滞在で経験したこととしては、日本の文化の浸透を実際に感じられたことが挙げられる。スーパーやコンビニでは日本でもおなじみの、日本社製のお菓子やカップ麺、化粧品を見ることができた。公共交通機関やブランド品店にまでも日本のアニメキャラクターがあしらわれているものがあったのは非常に印象深い。他にも香港と日本の類似点が感じられる点はしばしば見受けられた。とはいえ、見慣れない言語、見慣れない街並みに囲まれての生活は新鮮であった。

今回のプログラムを通じて得た学習成果には非常に満足している。中国語の能力が段違いに上がったことが一番の成長である。数多くの単語及び文法事項が身についた他、教科書の題材が中国文化に関連していたことから、文化に対する知識も得られた。後期の中国語の授業にもかなりのアドバンテージをもって臨めるようになった。また、英語を使う貴重な機会であったようにも思う。寮で同部屋になったイギリスの学生と様々な話題に関して話をすることができた。ツアーの時は現地の学生が英語で香港を解説してくれたので、それに対して英語で質問をしたりもした。また、申し込みの時には英語の書類を読んだり、大学のスタッフとメールでやり取りをしたりと実用的な経験が得られた。

海外留学に対する興味は、プログラム参加以前と比べて一層深まったように感じる。奨学金獲得などの選択肢を増やすためにも、大学でよい成績を収めるのはもちろんのこと、日々の言語学習にもこれまで以上に注力していこうと思う。